

「皆を守る『ちょっとした心がけ』

栗原市立志波姫中学校2年

新妻 由羅さん

ある日、友達と近くのスーパーに行った時のことです。鍵をかけ忘れそうになっていた私に対し、友達は自転車の鍵だけでなく、前輪をガードレールに固定するチェーンロックで、二重に施錠していることを知りました。

私はそれを見て、このようにすれば防犯力はぐんと上がるだろうと思うと同時に、鍵をかけるのはほんの一瞬と分かっているのに、つい面倒だと感じてしまっていた自分に気付きました。どうしても「まさか私の自転車が盗まれることなんてないだろう」と思っていたのです。

けれども、自転車の盗難は決して他人事ではありません。調べてみると、2分に1台もの割合で自転車の盗難が発生しており、施錠されていない自転車が「チョイ乗り」される例が多いそうです。やはり鍵をかけることで盗難に遭う確率を減らせるのだと知りました。

しかし私は、鍵をかけることには、もう一つの意味があると思います。よく事件の動機として「ムシクシヤしてやってしまった」ということを聞きますが、これはつまり、計画性のない犯行ということになります。それならばなぜ事件は起きてしまったのでしょうか。

私は、「ミスが重なったから」だと思います。サッカーでは、一人だけのミスでは点を獲られません。しかし、ミスが続くと点を獲られてしまいます。自転車の盗難事件も同じなのではないでしょうか。鍵をかけ忘れてしまった被害者のミスと、自分の心に負けてしまった加害者のミス、両方があるからこそ、盗難は起きてしまうのだと思います。

例えば、どうしてもなく苛立ち、それを何かにつけてくなっている時、目の前に鍵もかけずに置かれた自転車があつたら……。間違った行為、窃盗という犯罪が起きるかもしれません。しかし、この時、自転車の鍵がかかっていたら、盗難事件は起こらなかったかもしれないのです。その場合、被害者も加害者も発生しません。鍵をかけることは自分を守るだけでなく、加害者になってしまうかもしれない人を守ることでもあるのだと思います。

車や家の鍵も同じです。「ほんの少しの間だから……」と、鍵をかけずに離れてしまうことによって、本来起こらなくてもすんだ事件が起きてしまうかもしれないのです。

「これぐらいなら」「自分だけは大丈夫」という思い込みは、根拠のない考えだと思います。「もしかしたら……」「少しの間だけれど、念のために」という考え方で生活するだけで、犯罪は減るはずですよ。

みんながそんな「ちょっとした心がけ」をすることによって、地域を良くできるのではないのでしょうか。自分たちの地域を自分たちで良くし、少しでも犯罪を減らすことで、明るく楽しい毎日を、町の人みんなと送っていきたいと思います。